

平成 20 年度 認定こども園 金城幼稚園・金城保育園

学校評価について

I 教育方針について

・教育理念並びに教育目標

教育・保育基本方針

身体・精神(心)・知能の発達段階を確認しながら、
「出会いが人をかえ、感動が人をつくる」
ことをモットーにバランスよく育ててまいりたいと考えております

認定こども園の乳幼児教育の理念

生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期

教育基本法や児童福祉法と金城幼稚園・金城保育園・わかば保育園
塩沢金城わかば児童館の保育者が築き上げてきた経験と実績をふまえ、
認定こども園の乳幼児教育の理念を次のように定めました

認定こども園 基本理念

一人ひとりの園児があらかじめ持っている様々な
能力(可能性)を最大限発揮できるようにする

金城幼稚園・金城保育園 乳幼児教育理念

一人ひとりの園児がこれからの長い人生を生きる勇気・知恵・やさしさをもてるよう直接的・基本的な体験をさせる

認定こども園の乳幼児教育目標

基本的な生活習慣

心身ともに健やかな子ども

乳幼児期で大切な育ち

身体の育ち
基本的な生活習慣
心の育ち
コミュニケーション能力・表現
学びの芽生え

豊かな感性と創造性

明るく感謝と思いやりのある子ども

規範意識の芽生え

善い・悪いの区別のつく子ども

・教育課程

(別紙 1) 教育課程及び年間指導計画参照

・姉妹施設等との連携

認定こども園として金城保育園は、同じ教育・保育理念・教育・保育目標を持ち、施設設備・職員とも一体で保育を行っている

幼稚園敷地内にある塩沢金城わかば児童館は、認定こども園の子育て支援の拠点+放課後児童クラブ(2クラブ)を運営し、合同行事や合同の職員研修を行っている

わかば保育園(3歳未満児専用小規模保育所)は、合同行事や合同の職員研修を行っている
塩沢デイビスセンターゆきつばき・居宅介護支援事業所ゆきつばき、雲洞グループホームつばき園・デイビスセンターつばき園の老人介護施設や事業もあり積極的に交流を進めている

II 教職員について

・教職員数並びに免許・資格

職名	資格・免許	経験年数	人数	職名	資格・免許	経験年数	人数
幼稚園長	幼1・中1・高2 社会福祉主任任用資格	22年	1名	保育園長	幼2・小1・中1・高1・保育士	19年	1名
総括主任	幼2・保育士	7年	1名	主任	幼2・保育士	6年	1名
教諭	幼2・保育士	1~17年	5名	教諭	幼1・保育士	4年	1名
教諭	幼2	1年	1名	教諭	幼2・小2	2年	1名
保育士	保育士 児童指導員	3年	1名	栄養士	栄養士 管理栄養士	2~12年	3名
養護教諭	養護1	1年	1名	事務		2~43年	3名
平均経験年数		9.6年	22名	運転手	大型自動車	1~25年	2名

・園外研究発表実績等

- ・新潟県私立幼稚園特色教育振興モデル事業 平成11年度実施(スキー教室並びにスキー大会)
- ・文部科学省研究指定事業 平成12・13年高校生等保育・介護体験事業実践調査研究委託園
- ・新潟県地域子育て支援の拠点サポート幼稚園 平成13年度より実施
- ・文部科学省 平成16年度教育改革モデル事業
- ・文部科学省・厚生労働省(幼稚園・保育所一体型施設)
「平成17年度総合施設モデル事業」実施 わかば保育園との連携(全国35施設)
- ・全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修大会 平成19年度問題提起園
- ・新潟県私立幼稚園協会 新潟県幼児教育講座 平成19年度研究発表
- ・文部科学省 平成20年度幼稚園における学校評価の推進に関する調査研究委託園
- ・毎年 夏期・冬期各施設合同園内研修開催

園児について

・園児数並びに学級数						
年 齢	クラス名	園児数	保育園児	幼稚園児	担任資格	副担任資格
1歳児	ひまわり	7名	7名		保育士等	保育士・幼2
2歳児(満3歳児)	チューリップ ^o	11名	2名	9名	保育士・幼2	養護教諭1
3歳児	ばら	30名	11名	19名	幼2	保育士・幼2
4歳児	きく	22名	6名	16名	保育士・幼2	幼2・小2
5歳児	さくら	27名	11名	16名	保育士・幼2	保育士・幼2

施設や設備について

園庭や園舎、敷地の面積	
面 積	3,089.73㎡
園舎面積	1,149.14㎡ (1,438.98㎡ ; 児童館含む)
園庭面積	1,310㎡
施設・設備	保育室(8)・遊戯室(3)クライミングウォール・乳幼児室(1)・図書室(1) (児童館施設共用化含む) 調理室(1)・創作活動室(2)・職員室(2)・事務室(1)外
安全に係る配慮	
	毎月の避難訓練の実施
	非常通報装置の設置と警備保障会社との委託契約
	地元警察署との連携
	園児登園後の施錠
	給食の安全管理

保育料等について(幼稚園)

☆保 育 経 費 (月合計額) (①+②+③) 28,950円

①保 育 料 (月 額) 21,000円
(教材・冷暖房・子ども料理・スキー教室費用等含む)

②施設設備費 (月 額) 3,000円

③給 食 費 (月 額) 4,950円(完全給食・年165回程度)

栄 養 剤 (月 額) 200円

P T A会費 (月 額) 700円・・PTA 総会にて決定

注：スクールバス代 (月 額) 4,500円 (希望者のみ・地域により異なる)

入園時 ◎入 園 料 (入園時のみ) 25,000円

◎入園手数料 (願書提出時) 1,000円

◎学用品代 (初年度分) 5,000円

※制服・その他は実費とします。

※(保育園は公立保育所や認可保育所と同じ)

教育内容等について

・「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」と「地域の特徴」に基づき、乳幼児教育・保育基本方針、理念、教育目標を策定し、年齢毎の教育課程、年間・学期・月・週・日毎の指導計画を作成し、きめ細かな乳幼児保育を行っている。

特徴は、直接的・基本的な体験が重要と考え、畑での作物作りから始まる「子ども料理教室(毎月)」「スキー教室(冬期間)」「老人福祉施設訪問」「クライミングウオール」など地域や児童館まで含め、施設の特徴をいかした乳幼児教育を実践している。

詳細は、(別紙1) 参照

預かり保育について

保護者やご家族の希望に応じて、朝 7 時 30 分から夕方 19 時までに行っている。時間等ご相談ください。

※ 基本：3,500 円/月(17 時まで・おやつ代込)

子育て支援について

幼稚園敷地内にある児童館を中心に行っている。

お話広場・ママヨガ・手作り広場・すくすく広場・親子料理教室・みのりクラブ・わくわくコーナー・畑で作物・作物で料理など、充実した内容の講座や教室を開催している。

また、経験豊富な保健師や看護師・管理栄養士などが育児・保健相談に応じている。

給食等の実施について

完全給食の実施

食育についての取り組み

給食前に、毎回担当栄養士から食材や栄養について話をしてもらう。

魚沼産コシヒカリ(塩沢産)を農家から直接納入、精米し炊くなど地産地消に努めている。

幼稚園の畑で苗や種から作った野菜を収穫し、その野菜を使い、月 1 回クラス毎に子ども料理教室を開催して食育に努めている。

保護者会等の活動について

P T A があり、園の各種行事参加や P T A 独自の活動を行っている。

特に、運動会のクラス毎の仮装や、お遊戯会の歌の発表は、園の名物となっており、子ども達・参加者とも大きな楽しみのひとつになっている。

登園・降園について

基本的には、保護者の方が送迎して頂きます。希望により園バスで送迎も行う。

園児募集について

毎年、10 月中旬から 11 月中旬にかけて募集を行っている。

定員にあきのある場合は、随時入園が可能となっている。

詳細は、お問い合わせください。

学校評価結果について

平成 20 年度は、平成 20 年度文部科学省委託事業「幼稚園における学校評価の推進の在り方」を本園で受託し、平成 20 年 8 月から平成 21 年 1 月までの 6 ヶ月間で下記の通りまとめました。

(別紙 2) 幼稚園における学校評価の推進に関する調査研究結果報告

「6. 結果考察と 7. 今回の調査研究の結果のまとめ」参照

今回の学校評価は、学校関係者評価委員会まで設置する完全な学校評価とはなっていない。しかし、調査研究にあたって幼稚園外部の方 2 名（わかば保育園長・老人福祉士施設管理者{社会福祉士}）と福祉系大学の准教授にアドバイザーとして入って頂いている。

従って、調査研究を通して、関係者評価が行われたと考えられる。

今回の学校評価の認定こども園としての全教職員の共通課題は下記のとおりである。

課題と取り組み方法

	課 題	取り組みの方法
I	認定こども園の基本方針並びに教育・保育理念についての共通認識を持つ	教育理念や教育方針の重要性について気づき、常に考える
II	自分たちの施設の優れた点を再認識して、指導計画に反映する	幅広く学ぶ機会が多いことに気づき、自分の保育に活かす
III	自己点検・自己評価を機に自らの研修や研究の必要性を理解し、園全体で取り組む	自己点検・自己評価を年 3 回実施し園全体で検討会を持つ

自己評価結果公表シート

認定こども園としての独自の自己点検表を作成し、実施した。

自己点検の大項目は、

- I 保育の計画性、
- II 保育の在り方、幼児への対応、
- III 教師としての資質や能力・良識・適正、
- IV 保護者への対応・指導、
- V 地域の自然や社会とのかかわり、
- VI 研修と研究

に分け、中項目を 3 から 6、小項目を 1 から 5 に分けて行った。

方法は、各自自己点検を行い、その後担当者と外部の方 2 名（わかば保育園長・老人福祉士施設管理者{社会福祉士}）と大学の准教授のアドバイザーで話し合い、まとめた結果である。

各項目のまとめ

I 保育の計画性

- ・認定こども園として発足したばかりであるが、教育理念や教育方針について共通認識をもてるよう十分な話し合いを行う。

(教育理念や教育方針の重要性について気づき、常に考える)

- ・ 普通の保育(担任と副担任)や料理教室で栄養士、スキー教室等での指導者から学び取る方策をつくる。
(幅広く学ぶ機会が多いことに気づき、自分の保育に活かす)

- ・ 自分たちの施設のよいところを再確認し、指導計画に反映できるようにする。
(指導計画作成の手順について考える)

II 保育の在り方、幼児への対応

- ・ 職員間で話し合う時間を確保する事である。職員によって担任・副担任で話をする時間を設けている人とそうでない人とがいる。

(担任・副担任で時間を決めて日々の保育の話ができる様に徹底する)

- ・ 行事や活動内容が多くある状態で、本来のねらいが疎かになりがちになっている。
(行事や活動内容を職員全体で話し合いを行ない見直す)

III 教師としての資質や能力・良識・適正

- ・ 保育者としてマナーや義務などはしっかりと守っていると評価する職員が多く、組織の一員としての自覚は持てている。一方で、仕事に追われたり係の仕事がおろそかになってしまっている職員も多い。

(時間の見直しや、仕事内容・取り組み状況等を随時見直していく)

- ・ 園での取り組みから様々な情報や知識を得ている中で、その事を自覚している職員が少ない。
(取り組みから得られる情報や知識を再度確認した上で、保育を進めていく)

IV 保護者への対応・指導

- ・ 守秘義務の遵守の必要性については、全職員十分理解しているが、特に書類・データの管理では、園としての基準が明確でないため、各人で解釈に差がある。金城保育園で受けた指導監査でも、「児童の処遇状況や各種マニュアル等帳簿」の必要書類は整っていたが、保管の方法や場所について課題が残った。

(園としての基準を明確にし、ファイルまたは表示の色を揃え、持ち出しの可否を明示する。保管場所についても、日々確認ができるよう、職員室の机・椅子の配置を変更し、棚を活用しやすくする)

V 地域の自然や社会とのかかわり

- ・ 子育て支援事業については、園の事業であるので、職員全体の共通理解が必要である。

(子育て支援事業の必要性や内容について研修や会議で取り上げ、園全体で周知できるよう働きかける)

- ・ 地域の自然や社会との関わりについては、年間指導計画で定着しており、ほとんどの職員が当たり前のこととしてとらえている。日常の保育の中で無理のない形で取り入れることが出来ているからこそともいえるが、自己評価は低い結果が出てしまう。この点については、地域の自然や社会とのかかわりだけでなく、年間指導計画全体に言えることではないかと思う。各職員が年間指導計画の内容を実践するのみでなく、そこに込められている教育的な意味について十分理解する事が求められている。

(外部評価等取り入れて、他の園の実践等について聞く機会をつくり、自園の取り組みの内容とその意味を再確認する)

VI 研修と研究

- ・ 毎日の保育の中で、繰り返し経験していることについては、自信が持てている。しかし、毎日の仕事をこなすことに精一杯で、自らの保育を高める為の研究心を持つまでになっていないのが現状である。

(自己点検・自己評価を機に自らの研修や研究の必要性を理解し取り組む)

(時間の使い方も含めて園全体で取り組める環境等を検討する)

詳細は(別紙 3) 自己点検・自己評価のまとめ参照